

第 10 回公開講座を開催しました！

3月13日（日）、世界遺産センターで第10回公開講座を開催しました。

年度最後の公開講座として、今年も恒例の『石見銀山調査研究最前線！』と題し、基調講演とあわせ、平成22年度の調査研究成果の報告会の二部構成しました。

第一部は、石見銀山資料館の藤原雄高学芸員による、『石見銀山と大久保長安』と題した基調講演です。

大久保長安は、鉱山関係の奉行として徳川幕府の鉱山支配の基礎を築いた、石見銀山最盛期の立役者の一人で、石見銀山の初代奉行ともなった人物です。

今回の講演では、各地に残された文書史料を元に、長安が築いた鉱山支配の実態などが解説されました。遠方から各地の鉱山へ細かい部分までの確かな指示を出す、優れた官僚としての側面のほか、部下の心労をいたわる言及もあるなど、細やかな気遣いを見せた一面なども紹介されました。

（写真は講演の一部）



第二部の調査報告では、大田市が実施した昆布山谷地区、石銀地区、本谷地区の発掘調査についてその成果を報告しました。また、研究報告としては、『石見銀山最盛期』と題し、島根県が主体で実施する文献調査や石造物調査の成果のほか、現在進めている各地の鉱山比較研究として、佐渡と生野（兵庫県朝来市）の鉱山との比較研究成果を紹介しました。

佐渡や生野は、戦国時代から昭和に至る長期に亘り稼業を続けていたことから、近代の建築物などが多い「近代産業遺産」としての性質が強くなり、江戸期の遺構を中心とする石見銀山とは性質の違いがあることなどが解説されました。

今回は、市外からのたくさんの参加もあり、62名の満席状態で、質疑応答でもたくさんの質問が飛び交うにぎわった講座となりました（写真は聴講の様子）。

